

図解 江戸時代のすがたを残す浜離宮

四季の変化が楽しめ、海水を引き入れる潮入りの池と2つの鴨場があり、江戸時代の庭園の雰囲気や今に伝える。潮入りの池は海辺の庭園でよくつかわれていた方法だ。現在でも海水が入り出しているのは、都内では浜離宮だけ。

周りをビルで囲まれた現在の浜離宮。正式な名前は「浜離宮恩賜庭園」という。

画像は非公開です。

将軍家の庭園

江戸時代には徳川家の別邸で「浜御殿」とよばれていた。この庭園は、将軍が鴨場でタカ狩りをしたり、茶屋から見える景色を楽しんだりして過ごす場所だった。



●タカ狩り

将軍は飼いなしたタカで狩りを行った。タカ狩りを好んだ将軍は初代将軍家康や8代将軍吉宗など。目的は遊びのためではなく、体をきたえるためだった。



●ゾウを飼っていた

1729(享保14)年から1741(寛保元)年までの12年間、敷地内でベトナム産のゾウを飼っていた。このゾウは中国の商人から、動物好きの8代将軍吉宗に献上されたもの。

●浜御殿

もともとは甲府藩主松平綱重の浜屋敷だったものを、6代将軍家宣のときに改修し、浜御殿とした。能舞台や茶屋などが設けられ、客人をもてなす場所としても使われていた。しかし、1724(享保9)年の大火で屋敷を焼失、その後は再建されなかった。



11代将軍家斉のときに、茶屋や庭が修理され、庭園としてのすがたを取り戻したんだよ！

中央区でただ1つ、江戸時代のすがたを残す場所なのよ。



●延遠館

幕末につくられた洋館。1869(明治2)年から、1883(明治16)年に鹿鳴館ができる前までのあいだ、迎賓館として使われた。1892(明治25)年、建物が古くなったことを理由に取りこわされた。



明治維新後に皇室の所有となり、名前も「浜離宮」と改められた。そのころ、敷地内に延遠館が建てられ、外国からの重要な客人の接待を行った。延遠館では天覧相撲が行われたこともあった。



●延遠館での天覧相撲

相撲好きの明治天皇が、1884(明治17)年に行った。天覧相撲とは、天皇や身分が高い人に見せるための相撲。

●将軍お上がり場

将軍が船を乗りおりするところ。15代将軍慶喜が、1868(慶応4)年の鳥羽伏見の戦いで大坂城から江戸に帰るとき、このお上がり場から上陸して、馬に乗って江戸城へ帰った。現在も庭園内に原形を保って残っている。



●スイカ合戦

江戸時代、将軍や身分の高い人が見るためのスイカ合戦が行われた。紅白に分かれた船手組(水軍)が、浜御殿前の海岸でスイカを取り合って戦った。

